

LMS導入・保守運用業務
 (公告/公示日：2020年11月21日/調達管理番号：20a00798)について質問と回答は以下のとおりです。

独立行政法人国際協力機構
 調達・派遣業務部次長

通番	該当頁	該当項目	質問	回答
1	4	第1 5. (2)① 全省庁統一資格	以前、「平成29年・30年・31年度の競争参加資格」を取得し、それに基づき中小企業基盤整備機構様へ弊社のサービスを導入頂きました。今回参加資格として挙げられている「令和01・02・03年度全省庁統一資格」およびそれに係る「全省庁統一資格審査結果通知書」と「令和01・02・03年度全省庁統一資格審査結果通知書」は現時点では持ち合わせておりませんが、資格取得のために申請をさせて頂くことは可能でございます。一方で、当該資格関連のホームページを確認させて頂きましたところ、申請から結果通知が来るまでに、数週間から数ヶ月かかるとの記載がありました。そのため、2020年12月8日の「争参加資格申請書・下見積書の提出」までに通知書が間に合わない可能性もございます。その場合は、資格の申請中という形で、後日提出ということでご承諾頂くことが可能でしょうか。	入札説明書P4の記載のとおり「平成29年・30年・31年度の競争参加資格」は「令和01・02・03年度全省庁統一資格」に読み替えて下さい。
2	5	第1 7. 下見積書	下見積書に記載する見積もり内容は、「入札説明書」P24「入札金額内訳書」に記載の「2,100名 x 14ヶ月+20,000名 x 6ヶ月 + 通訳8回分」を指していますでしょうか。あるいは「LMS 導入・保守運用業務 調達仕様書」P23「システム利用者数」に記載の2021年度想定44,500名分を指していますでしょうか。	下見積書及び入札書共に入札説明書 P24「入札金額内訳書」の費用項目及び数量等を使用して積算願います。
3	6	第1 8. 入札説明書に対する質問	入札に関する質問が11月27日以降に発生した場合、どこにどのように問い合わせすればよいでしょうか。	11月27日以降の問い合わせは、受け付けておりません。
4	6	第1 9. (3) 技術提案書の記載事項	「第2 業務仕様書」、別紙「技術評価表」に記載した項目をすべて網羅してください。」とあるが具体的にどの項目を指していますでしょうか。	入札説明書 P16「第3技術提案書の作成要領」及びP20「評価表（評価項目一覧表）」を参照の上、該当する項目を記載願います。
5	6	第1 9. (3) 技術提案書の記載事項	別紙「技術評価表」とは、「入札説明書」P20の「評価表（評価項目一覧表）」を指していますでしょうか。	ご理解のとおりです。
6	8	第1 12. (4) 入札金額	「例：123,456,789円⇒123,456,789円で入札してください。」とありますが違いを教えてください。	応札者によっては入札金額を千円単位繰上げ、もしくは繰り下げて入札するケースがありましたので、円単位の応札をお願いします。
7	15	第2 業務仕様書	「業務仕様書」とは、「LMS 導入・保守運用業務 調達仕様書」を指していますでしょうか。または、[附属書1]の「業務仕様書」を指していますでしょうか。	入札説明書 P15「第2業務仕様書」とは、「LMS 導入・保守運用業務 調達仕様書」を指しております。契約書では「附属書 I 業務仕様書」として編集します。
8	16	第3 技術提案書の作成要領	「あくまで参考様式としますので、応札者独自の様式を用いても結構です」とありますが、PPTなどオリジナルの様式の提案書として提出させて頂くことは可能でしょうか。	PPTなどオリジナルの様式の提案書として提出していただいて結構です。
9	22	第4 経費に係る留意点1の(1)の④ 通訳手配に関して	・在外事務所/支所に対する集合研修については都内事業所等のリモート環境から実施、通訳についても研修の開催場所からリモートで通訳を実施という認識でよろしいでしょうか ・集合研修受講側の現地に通訳を派遣する必要がある場合は集合研修に参加される最大受講者数は何名ほどになりますでしょうか。（レシーバー等の準備のため）	・在外事務所/支所に対する集合研修、またその通訳につきましては、リモート環境で実施することを想定しております。 ・集合研修受講側の現地に通訳を派遣するという運用は想定しておりません。
10	22	第4 経費に係る留意点2. 経費の支払いについて	「受注者は月次の経費精算報告書を提出し検査をうけ、発注者の清算確定額通知をもって、請求書を発行する」とありますが、下記①～④のお支払タイミングについて、以下の項番3～6の質問の考え方でよいかご確認お願いできますでしょうか また、基本的に本契約で月ごとのお支払、四半期ごとのお支払の検討をいただくことは可能でしょうか？	・初期機構職員向けライセンス（2021年2月納品、3月支払い） ・初期導入支援（2021年3月末納品、4月支払い） ・追加ライセンス（利用開始月から2022年3月までのライセンス費を利用開始月の翌月に支払い） ・保守（2022年3月に14か月後払い） ・通訳（都度精算） 以上の支払いを仕様書で定義しております。
11	23	第4 経費に係る留意点2. 経費の支払いについて①初期導入支援	「ユーザ権限項目設定管理書及び運用手順書の検査合格をもって、契約書に定める契約金額を支払うこととする。」とありますが、初期導入支援業務が終了するタイミングで検査を実施し、検査合格後直ちに請求書を発行し、翌月末に初期導入支援分総額をお支払いいただけるという認識でよろしいでしょうか。	ご理解のとおりです。

12	23	第4経費に係る留意点 2. 経費の支払いについて ②LMS保守運用業務	初期導入支援完了後～2022年3月までの保守運用費用を、2022年3月の検査合格をもって、2022年4月に一括でお支払いいただけるという認識でよろしいでしょうか。	ご理解のとおりです。
13	23	第4経費に係る留意点 2. 経費の支払いについて ③ライセンス費用	初期 2100ユーザー分ライセンス費用については、契約時に一括でお支払いいただく追加ユーザ発生時は利用開始月の前月までに追加ライセンスの発注をいただき、利用開始月～2022年末までの追加ライセンス総額を追加ユーザ利用開始月の翌月末にお支払いいただけるという認識でよろしいでしょうか。	ご理解のとおりです。
14	23	第4経費に係る留意点 2. 経費の支払いについて ④通訳手配に係る費用	通訳作業が発生する月の月末に請求書を発行し、翌月末にお支払いいただけるという認識でよろしいでしょうか。	ご理解のとおりです。
15	24	入札金額内訳書について	LMS保守運用業務については単価の項に月額単価 ライセンス費用①については単価の項に1名分の月額単価 を記載すればよろしいでしょうか。	ご理解のとおりです。 ただし、ライセンス費用①は初期機構職員1名分のライセンス月額単価、ライセンス費用②は追加ライセンスの月額単価を記載ください
16	25	第5 契約書(案)	「契約単価」とは落札価格のことでしょうか。	落札価格のではありません。単価契約ですので「入札説明書」P24「入札金額内訳書」に明記された単価を指しています。
17	27	(契約単価) 第5条	「契約単価は、附属書Ⅱ「契約単価表」(以下「契約単価表」という。)に記載のとおりとする。」付属書Ⅱには入札結果による単価表を採用しますとありますが、入札時には総額費用を提出しますが、単価表というのはどういった様式になるものなのでしょうか。 入札金額内訳書の項目毎の単価が記載される表という認識でよろしいでしょうか。	ご理解のとおりです。 「付属書II」には、入札説明書P24「入札金額内訳書」の表が挿入される予定です。
18	48	各種書類受領書	「各種書類受領書」はどのように使用するべきでしょうか。	紙媒体での提出物が発生した場合に使用します。今回の選定手続きには使用いたしません。
19	10_調達 仕様書	(2)LMS 導入・保守運用業務 調達仕様書 モバイル対応画面の表示 /A01-08	レスポンス対応で、各種スマートフォンやタブレットで最適にご利用いただけるようにしておりますが、 どうしても『モバイルアプリ』を用意する必要がありますでしょうか？	情報セキュリティの観点からモバイルアプリにてアプリ内に教材をダウンロードし、ローカルで教材を利用することを想定しておりますので、必須要件でございます。
20	11_調達 仕様書	2.1機能要件 表3 機能要件 A02-10 トランスクリプト	この場合のトランスクリプトは成績証明書ではなく、テキストの理解でよろしいでしょうか。A02-14で修了証発行の要件がありますのでその理解しております。またその場合、動画とPPTの同期した教材であれば動画ではなく、PPTのノート部分を活用したテキスト表示でもよろしいでしょうか。	ご理解のとおりです。 機能要件A02-10に記載しておりますトランスクリプトとは、テキストのことです。情報セキュリティの観点から、PPTのダウンロードが厳禁の場合がございますので、PPTのノート部分を活用した運用については避けるようお願いします。
21	12_調達 仕様書	2.1機能要件 表3 機能要件 A03-10 グループビデオ会議	WEB会議アプリケーションとリンクさせるシステム構成のため、グループビデオ会議もLMS外で実施をご提案でよろしいでしょうか。グループビデオ会議の参加者の申込管理や出席登録が自動でできれば、日常的に利用されているWEB会議アプリケーションのほうが合理的なシステム構成になるかと想定しご質問させていただきます。	グループビデオ会議はLMS外で実施することを想定しています。また、LMSとグループビデオ会議システムの間シームレスな遷移を想定しております。
22	12_調達 仕様書	2.1機能要件 表3 機能要件 A04-01 公開プロフィール画面	ユーザの公開範囲想定はどこまででしょうか。個人情報の関係もあるため、組織階層に沿った公開などでもよろしいでしょうか。Linkdinを利用する前提であれば、LMSの公開プロフィールと役割分担を明確にしたほうが良いかと思い、ご質問させていただきます。	組織階層、または権限設定に応じてユーザープロフィールの公開を想定しています。詳細につきましては、調達仕様書3.1.1. 導入時の権限設定・ID管理に係る業務フロー設計及び初期設定支援の中で、ご検討いただきますようお願いいたします。
23	13_調達 仕様書	2.3.4.セキュリティパッチ管理	パッチ更新はベンダーリリースから3日以内とのことですが、計画や影響などの検証も必要なため、努力義務でよろしいでしょうか。	総務省「ASP・SaaS における情報セキュリティ対策ガイドライン」に基づき、脆弱性が発見された場合には提供されたパッチを適用することによる影響を考慮したうえで、パッチを適用ください。なお、原則としてベンダーリリースから3日以内、でのパッチ適用をお願いします。
24	16_調達 仕様書	3.1.4 LMSの利用促進・定着支援に関するサポート	カスタマーサクステームの設置について24時間365日。日・英(できれば仏・西)となっています。こちらは電話、メール、WEB会議などでどのような手段を想定されてますでしょうか。想定によりサポート費用が変わるためこういったサポートを期待されているかイメージがございましたら、より詳細な情報をお伺いできればと思います。	電話、メールでご対応いただくことを想定しております。
25	8_調達 仕様書	2. システム全体構成	LMS 導入・保守運用業務 調達仕様書 P.8ではLinkedIn LearningとLMSの間で相互にシングルサインオンがされています。ユーザーのシステム間の移動としては、LinkedInにログイン後、LMSに遷移してくるとの理解でしょうか。	ご理解のとおりです。 LinkedInにログイン後、LMSに遷移することを想定しております。ログイン画面上で、LinkedInアカウントでのログインをもって認証をすると想定しております。

26	8_調達仕様書	2. システム全体構成 2.1 機能要件	LinkedInは他システムへのSingle Sing Onを用意しておりますでしょうか。	SAML2.0認証に対応しております。詳細はLinkedInの公式Webサイトからご確認ください。
27	8_調達仕様書	2. システム全体構成 2.1 機能要件	LMSにログインしてからLinkedInに遷移させることは想定されておりますでしょうか。	想定はしておりますが、今後要検討事項としております。
28	8_調達仕様書	2. システム全体構成 2.1 機能要件	LinkedInとLMSは同じIDを利用する想定でしょうか。	必ずしも同じではないと想定しております。ただし、ユーザーの登録メールアドレスは原則同じものを使用することを想定しております。
29	8_調達仕様書	2. システム全体構成 2.1 機能要件	LinkedIn LearningがもつコンテンツマスタはLMSに連携させる必要があるように思われます。こうした機能は必須条件となりますでしょうか。	必須条件ではございません。LinkedIn Learningのコンテンツ受講はLinkedInプラットフォーム上で行うことを想定しております。
30	9_調達仕様書	(1)LMS 導入・保守運用業務調達仕様書 設定言語の多言語対応/A01-07	多言語対応は、受講者が利用する機能だけでしょうか？ 教育を管理する管理者用の システム画面にも多言語対応が必要でしょうか？	受講者・管理者ともに多言語ユーザーの利用を想定しているため、いずれの画面でも多言語対応が必要です。
31	9_調達仕様書	2.1機能要件 表3 機能要件 A01-01 ログイン	LinkedIn Learningが認証元 (IdP側) となり、SAML2.0で連携する前提でよろしいでしょうか。 また二要素認証はIdP側ではなくLMS (SP側) にも求めるという理解でよろしいでしょうか。 もしくはLMSがIdPとなり、そこで2段階認証し、LinkedIn Learningにシングルサインオンするイメージでしょうか。	LinkedInが認証元 (IdP) となり、SAML2.0で連携するという前提で相違ございません。二要素認証は、LMS側に求めるものと想定しております。LinkedInのアカウントを未所持のユーザーについては、二要素認証を必須とする想定です。LMSを認証元 (IdP) とする連携は想定しておりません。
32	9_調達仕様書	2.1機能要件 表3 機能要件 A01-07 設定言語の多言語対応	多言語対応が充足していない場合のご質問ですが、システム的な対応として、LMSを多言語対応 (特に仏語、西語等) する場合は受講者画面のみでよろしいでしょうか。また運用的な対応として、ユーザは基礎的な英語ができる前提で英語画面をベースに画面構成をシンプルにして第一言語が仏語、西語のユーザに展開している顧客もいるため、そういったご提案も可能でしょうか。	受講者・管理者ともに多言語ユーザーの利用を想定しているため、いずれの画面でも多言語対応が必要です。 ご質問いただいている運用的な対応につきましては、要件を満たしているのであればご提案いただくことは可能です。

以上